

教育等の振興に関する施策の大綱 基本目標の状況

(R 元.6 月時点)

| | |
|----------------|---|
| 「知」の目標の状況..... | 1 |
| 「徳」の目標の状況..... | 3 |
| 「体」の目標の状況..... | 5 |

掲載したデータは、令和元年6月時点での最新データです。また、全国学力・学習状況調査及び全国体力・運動能力、運動状況等調査結果については、東日本大震災の影響により全国的な調査が行われなかった平成23年度の結果は除いています。

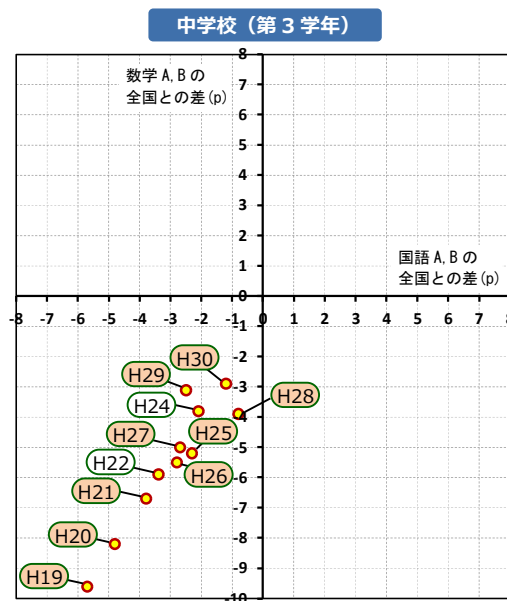
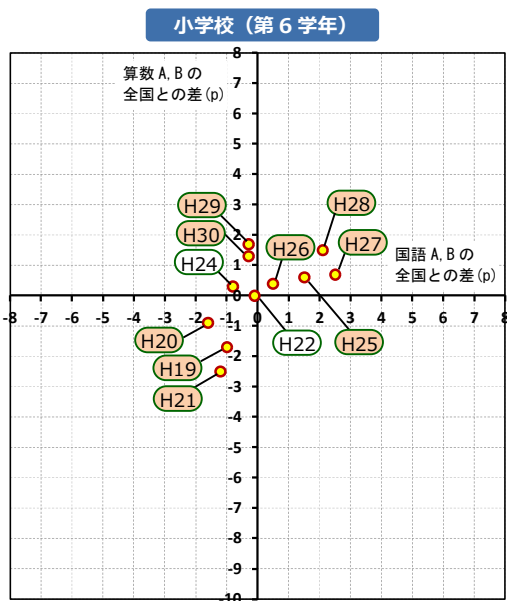
目標



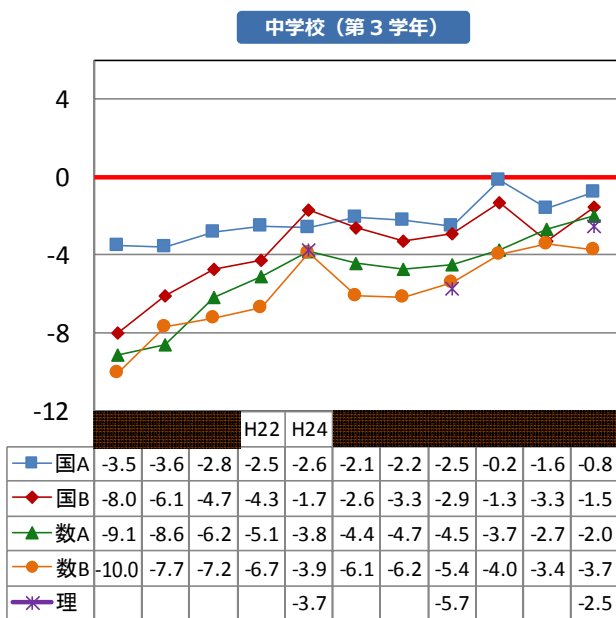
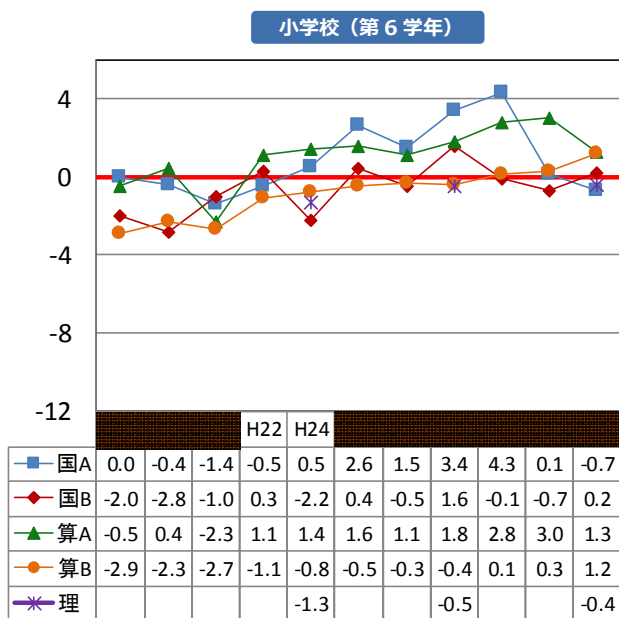
小学校の学力は全国上位を維持し、更に上位を目指す
 中学校の学力は全国平均以上に引き上げる

■全国学力・学習状況調査結果 (H19~H30 年度)

◇本県と全国平均正答率の差



◇本県と全国平均正答率の差 (教科、問題別)



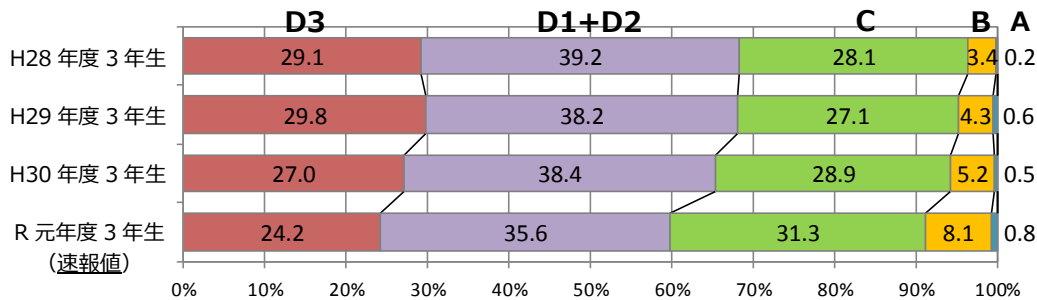
※平成 22・24 年度は抽出調査、平成 23 年度は東日本大震災の影響により全国調査は未実施
 ※A 問題：主として「知識」に関する問題、B 問題：主として「活用」に関する問題

- 小・中学生の学力の状況は、全国学力・学習状況調査が始まった平成 19 年度からは改善傾向にある。
- 平成 30 年度調査結果について、小学校は引き続き全国上位層に位置しているが、国語・算数ともに A 問題で前回調査を下回る結果となった。中学校は、国語 A・B、数学 A で全国平均との差が 2 ポイント以内となるなど、その差を着実に縮めてきているが、数学 B は 3.7 ポイント下回る状況にあり、更なる改善が求められる。
- 理科について、平成 30 年度調査結果では小学校で 0.4 ポイント、中学校で 2.5 ポイント全国平均を下回る状況にあるが、小・中学校ともに前回は上回る結果となった。



目標 高校3年生の4月の学力定着把握検査におけるD3層の生徒の割合を15%以下に引き下げる

■ 学力定着把握検査結果（3年生4月の調査結果）



※数値は学力定着把握検査Ⅰ（30校）の結果

※その他6校で学力定着把握検査Ⅱを実施

※評価尺度である学習到達ゾーンの内容は下表のとおり

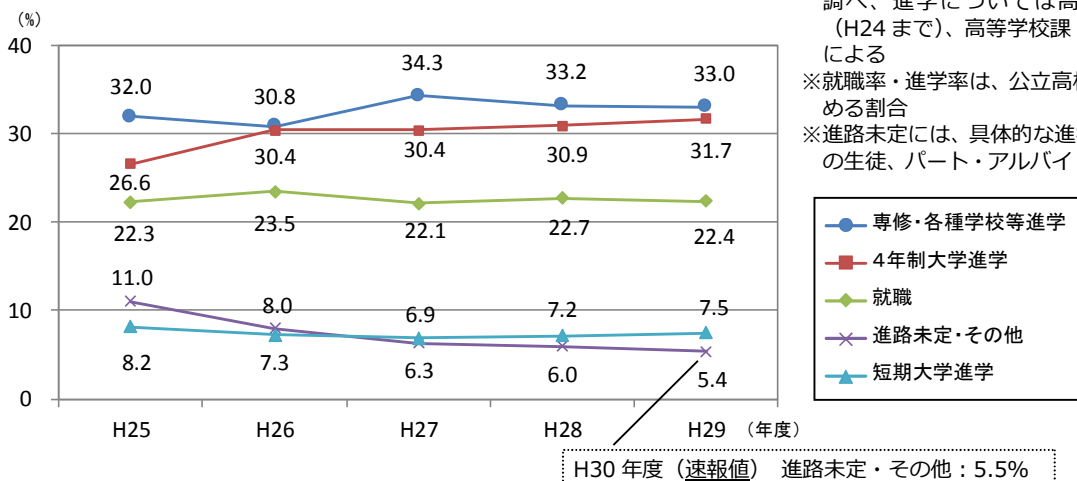
（なお、学力定着把握検査Ⅰにおける学習到達ゾーンの最高値はA2であり、A1～S1は存在しない）

| 学習到達ゾーン (GTZ) | 進路選択肢 | |
|------------------|---|--|
| | 進学 | 就職 |
| Sゾーン | S1～S3 難関大学合格レベル(最難関大はS1) | 上場企業などの大手の就職筆記試験や公務員試験に対応できるレベル |
| Aゾーン | A1～A3 国立大合格レベル | |
| Bゾーン | B1 公立大学合格レベル(一般入試) B2・B3 国公立大の推薦入試に合格可能で、私立大の一般入試では、 選択肢が広がるレベル | |
| Cゾーン | C1～C3 私大・短大・専門学校の一般入試に対応可能なレベル | 就職筆記試験における平均的評価レベル |
| Dゾーン | D1 上級学校に進学することはできるが、授業についていけず、苦勞する学生が多い | 就職試験で必要な最低限のラインはクリアしているが、仕事をする上で支障が出ることが多い 筆記試験が課される企業では不合格になることが多い |
| | D2 | |
| | D3 | |



目標 高等学校卒業者のうち進路未定で卒業する生徒の割合を3%以下にする

■ 公立高等学校卒業者（全日・定時・通信制）の進路状況



※就職については高知県就職対策連絡協議会調べ、進学については高知県進学協議会（H24まで）、高等学校課（H25以降）調べによる

※就職率・進学率は、公立高校卒業生全体に占める割合

※進路未定には、具体的な進学・就職先が未定の生徒、パート・アルバイト等の生徒も含む

高等学校課調査

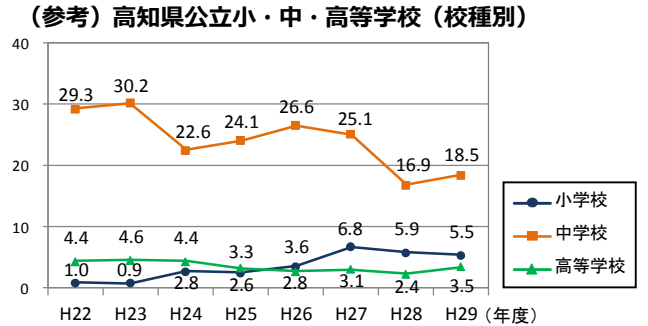
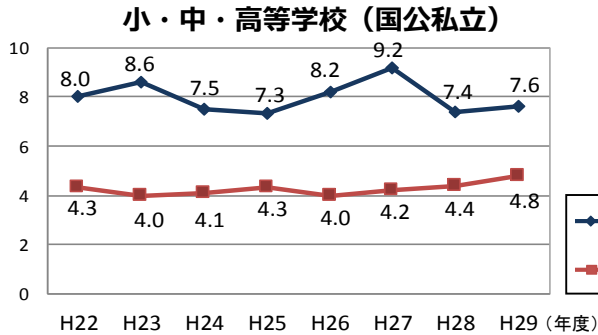
- 高校生の学力の状況について、令和元年度3年生の学力定着把握検査結果（速報値）をみると、D3ゾーンの生徒の割合は24.2%となり、前年度から大きく減少している。
- 公立高等学校卒業者のうち進路未定で卒業する生徒の割合は減少傾向にあるが、平成30年度の速報値では5.5%となり、前年度と比較して微増（+0.1p）している。



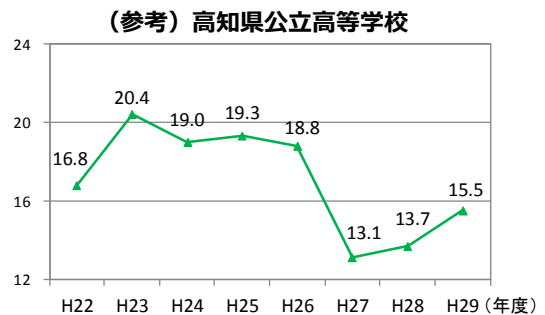
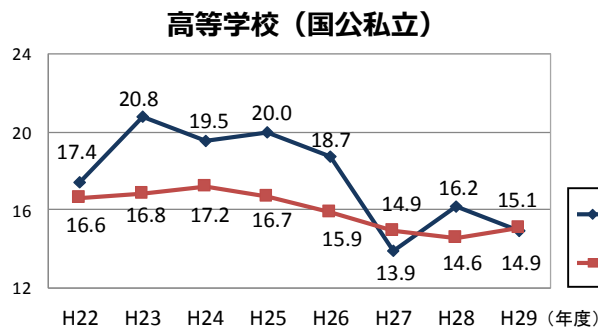
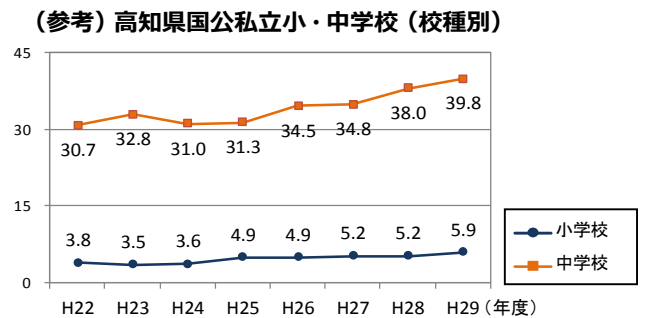
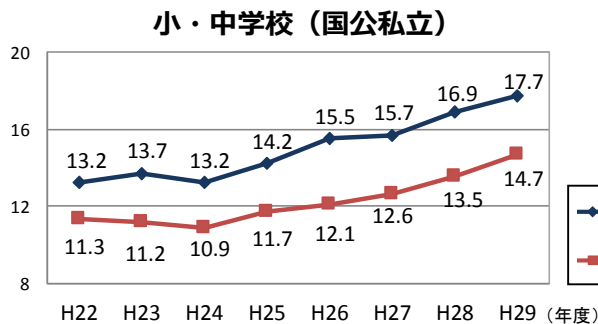
生徒指導上の諸問題（不登校、暴力行為、中途退学）の状況を全国平均まで改善する

■ 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸課題に関する調査結果 (H22～29 年度)

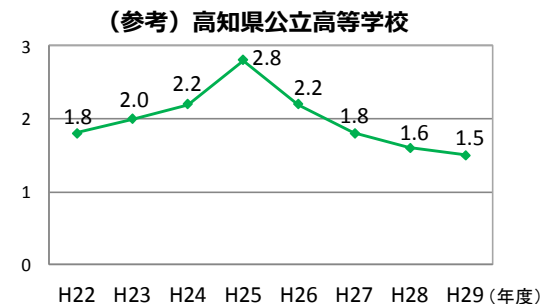
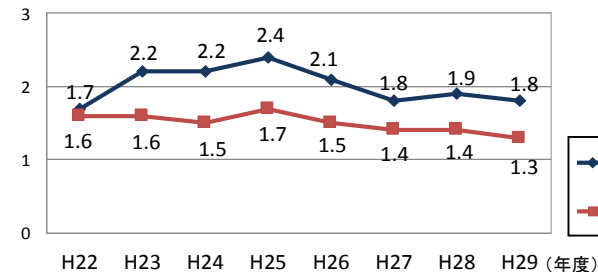
◇ **暴力行為** ※数値は1,000人あたりの発生件数



◇ **不登校** ※数値は1,000人あたりの不登校児童生徒数



◇ **中途退学 (国公立)**



※数値は%、通信制高校の中途退学をH25年度から追加

- 小・中・高等学校の1000人あたりの暴力行為発生件数は、全国平均を上回る状況が続いている。校種別にみると、小学校は平成27年度に大きく増加したが、その後は徐々にではあるが減少してきている。中・高等学校は減少傾向にあるが、平成29年度は前年度より増加した。
- 1000人あたりの不登校児童生徒数は、小・中学校は平成25年度以降、高知県、全国ともに増加傾向にある。高等学校は、高知県は平成23年度をピークに減少傾向にあるが、公立学校では平成27年度を境に、再び増加に転じている。
- 高校生の中途退学率は、近年減少傾向にあるが、依然として全国平均より高い状況が続いている。

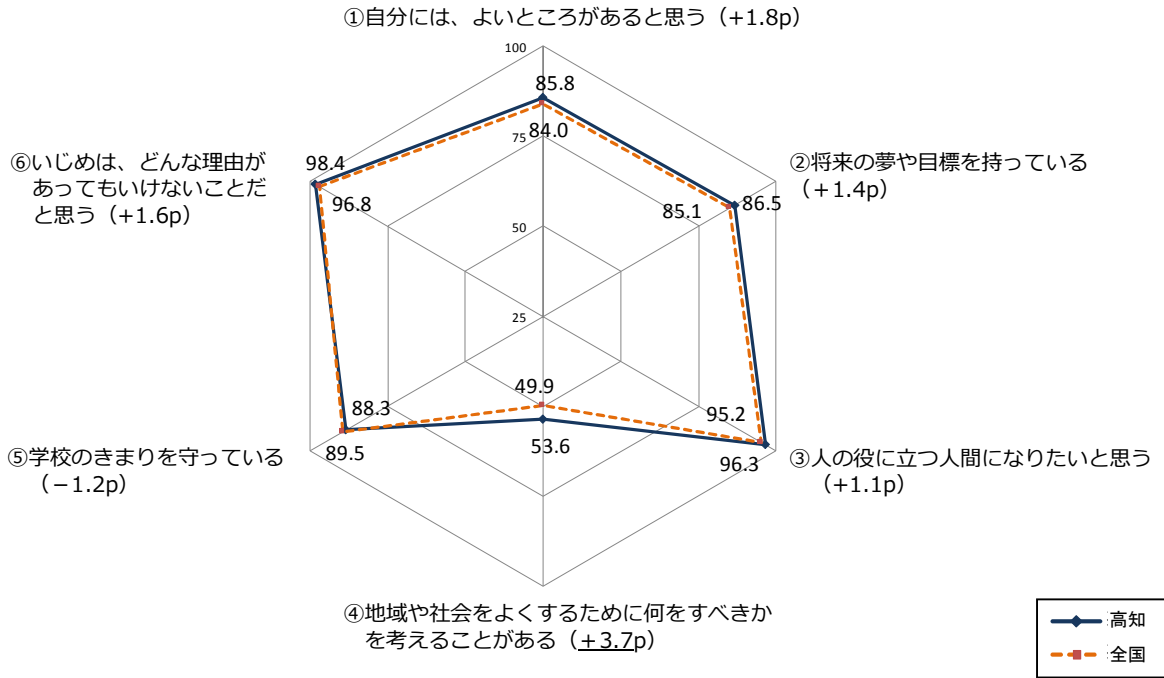


全国学力・学習状況調査における児童生徒の道徳性（自尊感情、夢や志、思いやり、規範意識、公共の精神等）意識調査結果で、全国平均を3ポイント以上上回る

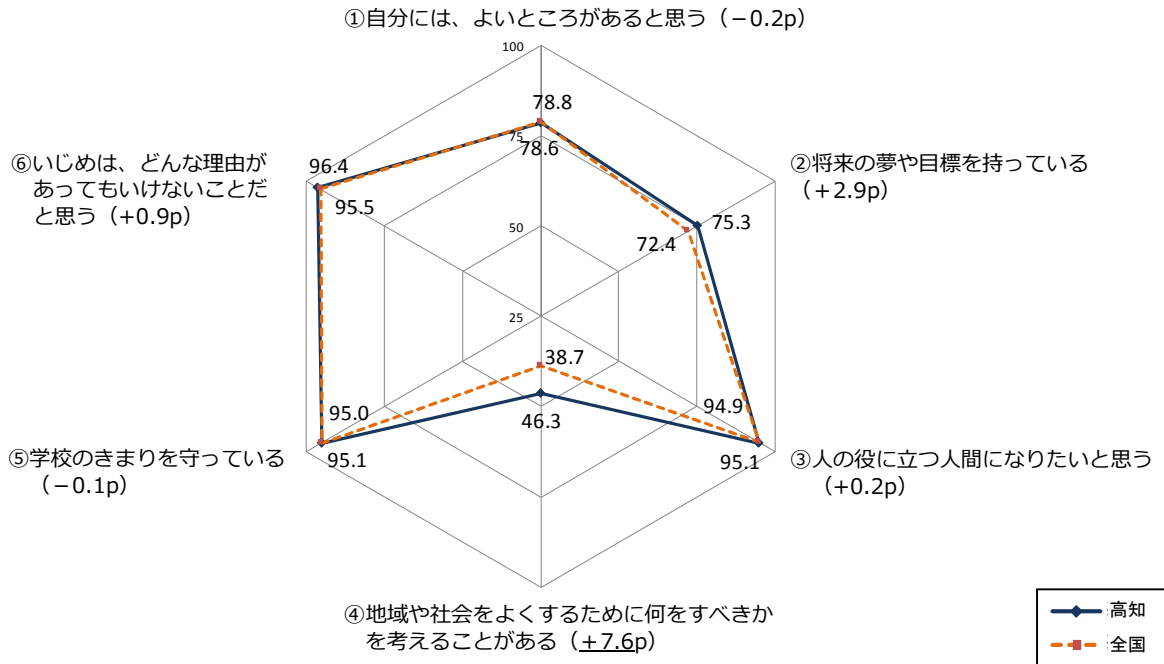
■全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙調査結果抜粋（H30年度調査結果）

※各質問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合（%）
 ※質問項目横の（ ）内数値は全国平均との差（高知－全国）

小学校（第6学年）



中学校（第3学年）



■小・中学校ともに、多くの項目で肯定的な回答の割合は全国平均とほぼ同じであるが、④「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」については、小学校で3.7ポイント、中学校で7.6ポイント全国平均を上回っている。

目標



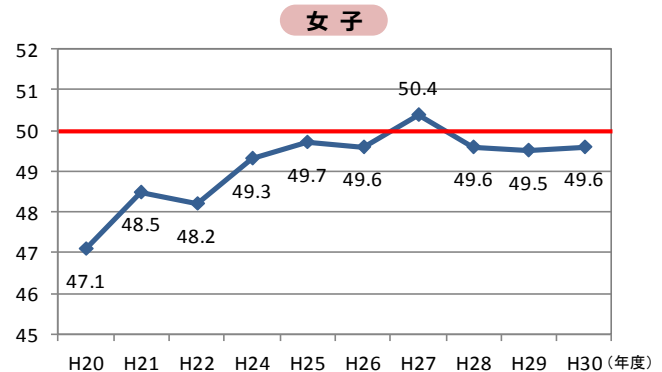
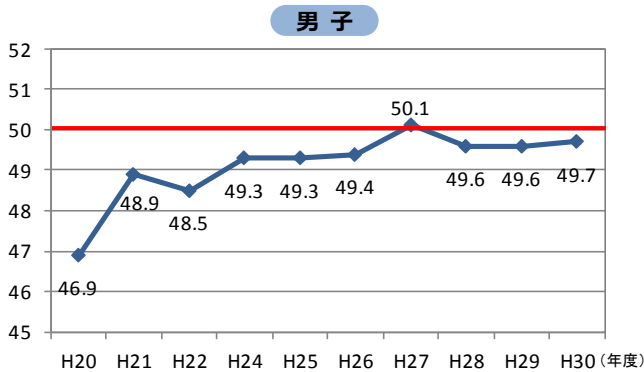
小学校の体力・運動能力は全国上位に、中学校の体力・運動能力は全国平均以上に引き上げる

■全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果 (H20～30年度)

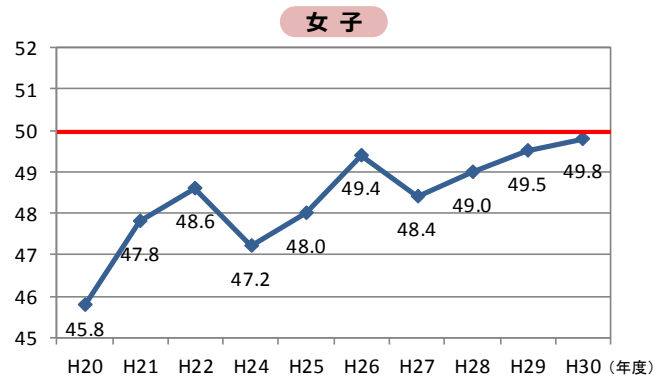
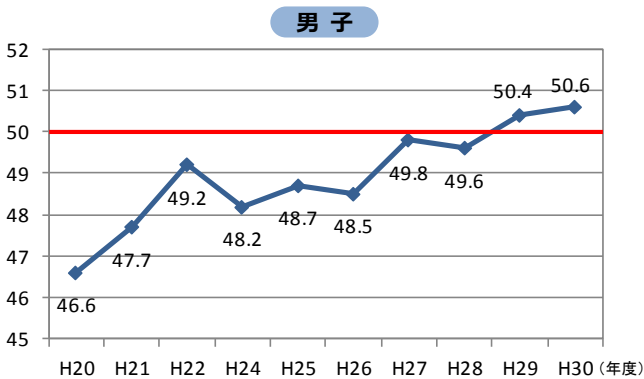
※平成23年度は東日本大震災の影響により全国調査は未実施
※数値はT得点 (全国平均=50)

◇体力合計点 (8種目の実技の総合点) の推移

小学校 (第5学年)

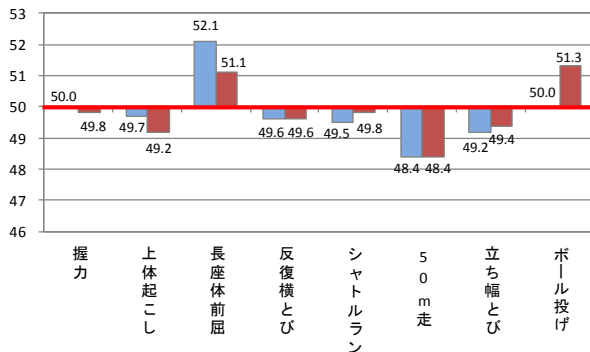


中学校 (第2学年)

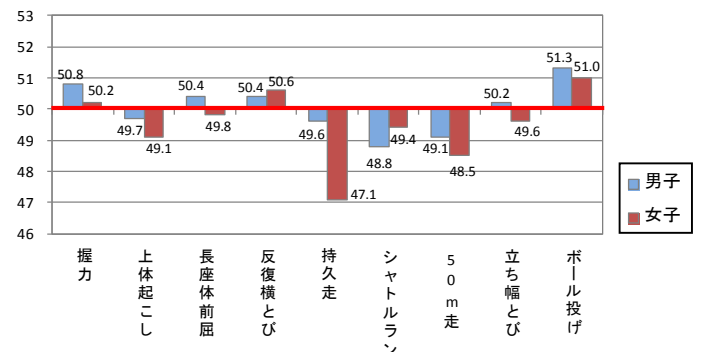


◇種目別結果 (H30年度)

小学校 (第5学年)



中学校 (第2学年)



■ 男子
■ 女子

■ 児童生徒の体力等の状況は、調査が始まった平成20年度は全国と比較すると低い水準にあったが、その後は着実な改善傾向にあり、小・中学校ともにほぼ全国水準に達している。平成30年度の調査結果をみると、体力合計点において、中学校男子が前年度に引き続き全国平均を上回るとともに、中学校女子が過去最高点になるなど、特に中学校において改善が進んでいる。